

027
428
1

續一
如
石
山



029
A28
1

愛知女子
第 11843 號
書 圖

ナニヤ

87811

清

續 甲 要 仙 序

今ハナニヤセアリト云ハシ

蕪村種良の二更と云々

嵐山のあやしの小路乃僑居ト云

百鬼夜行の末話ト云々

いふ話ありの更耳打云々

あれいふをいそ四吟流りのあつ

みよる云々と終り膝押の四号

百鬼夜行

仙やうう侍々々々書林何れ
本この何て世々ひり侍り
抱きく三老を既く没して我獨
存せり翁と此らり危きくの曉臺
嗟我の元とく運て澄くをく
そりある喜羅加の口の言んむ
やくこれも都くはるものありき
ある日推来町の月溪の旅を

ああいぬ余觴をくつていさや
此流もくく添くそあや一の樓
この何としかの老婆子う化て絃
糸をを伝て一戲れをやとて
ある一眉を志くもくつていさ
この妖撫うもくつていさ醒す
とれに按よ政帳を入て
清寤せんもくつていさ二寤

とめやそ筆硯をとり
再いふ東四歌仙の篇は真珠
中 ありたり侍り也

東半亭九董書

天明七丁未孟夏上浣

其一

望やねえありけそ四月下

曉臺

飛蟻ある日乃晴くくありて 九董

遠騎くちの風掃やちるらん 月溪

咲くまつの梅散りて 音羅

舟のほむ春の酒買へ 董

波の浮網よるらん 臺

〆〆雪柳の節々添添
 狸の願々たり賣家
 さめくの人の子もか負た
 我の盲を神も上げや
 こゝろまゝ今もなほ古具足
 世分の荒も塩胞七島
 弓張り五更の天ハ此
 こゝろあつて院奈の家
 蘿 臺 董 薙 臺 董 薙 臺

機の片足もをうら檀
 こゝろも多くと憎ふ者
 一の流も二の瀬を高く星ゆり
 声うらとらて炬火より次
 未五石罅して花も神方能
 家くおぼし独活も蕨
 蘿 臺 董 薙 臺 董 薙 臺

屯の散るるをうらむ
存此是下ハ我カをうらむ

うつらやうらむある鼻をら

青蘿

素の鳥の啼けもある音 月溪

江乃楓くれそ井深くある家 九董

市門下入えきく秋の風 曉臺

番匠乃良ちとくゆる夜乃月 溪

剛殿蒸く配る辰の日 蘿

足利のあいらふ志のみむり 一 株 臺

わがやうふ志を寺へ移る 董

夜起をひらうはつふのきり 蘿

よる屋はらも尺蜘蛛の糸ちる 溪

傘工の牽手はうらやめむ 董

野志の雀賣へ行く 臺

おぼろくハ元へ志すの髪 溪

二夜女の書ハ殿の媒 蘿

存あけつるけり園のたれ管 臺
 旅のやどり人奮忌しして 董
 其之うたを尋ね士佐泊 蘿
 入日のあつ年雨ちのくた由 溪
 矢軍は骨奴エヒスの若きちけを 董
 泥を踏あけの使わさ云 臺
 祐天の薬を志つる岸居し 溪
 をうたまのく雪の紅梅 蘿

さとびく扇のひらく白の 臺
 放下の娘みやいこくろ 董
 七つの上舟く鐘やはるや 蘿
 鳥をよ木やちも吹まの風 溪
 目の前子物盗み谷に非人を 董
 二階の裸大笑いある 臺
 追善より浄るうらな月の 溪
 木津をこも綿の上化 蘿

舟の雨大炊の局下居しと 臺
磬くくくくを蒼木をくく 董
劇殺に猿の毛生衣形く 蘿
雨をくくをくをくくくくくく 溪
光とく次藤のくくくくの運橋 董
興をくくくくくくくくくく 借くく 臺

其三

あをくくくくくくくくくくくく 月溪
田中の松は出さるる声 曉臺
簾拂 沙着たる宿く基を打し 音蘿
水月呂をくくく皆嘆ひたり 九董
弦繩く馬衣の湿りくくく 臺
複く落く 雷のあや 溪

大宮司の白子^{ひらこ}の^{うしろ}え^は着て
 娘^{むすめ}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 育^{そだ}くの^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 新^{あらた}浮^う船^{ふね}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 待^{まち}合^あは^れ秋^{あき}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 女^めあ^るの^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 灌^{かん}頂^{てい}を^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 各^{おの}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま

少^{せう}妙^{めう}炭^{たん}と^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 流^{なが}る^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 死^しす^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 夕^{ゆふ}照^{てる}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 畑^{はたけ}も^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 古^{ふる}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 雞^{けい}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま
 各^{おの}の^{うしろ}え^はある^んと^志す^らま

董

蘿

溪

臺

蘿

董

臺

溪

董

蘿

溪

臺

蘿

董

臺

溪

築此の女々三線習ふ小船既 董

女筆の嘘の合を片つ戸 羅

口却り淀屋の風をかのあり 溪

をり子の色をよ此さる 臺

逝るのハハのそまを最上何 羅

鬼や女君の恥を串小私 董

力りるのまこと妹の腹の前 臺

珍なりをぬる家の半部 溪

伊之原のあしカシヤ 撼カシヤ ちんこ 董

支珠をぬる醫者仲良し 羅

修ぬる油あやまつとりの暮 溪

少石小坂の月形を押す 臺

花折る駕のそを川に朗 羅

春閑ぬる子灯の埋火 董

苦哉名利人
樂矣乞兒身

乾銜子名利のあはれなり

九菫

世の裸力の雪や霰や

青蘿

鴉倉乃あはれ志とらふ大吼と

曉臺

小松のすきと落ちるる水

月溪

うぶむら市の苧麻カラムシ肌寒く

菫

親子のされし柳を奪あふ

菫

こころと板間へ落ちる古鼓

溪

踏ふの音を神とわらん

臺

藤分て我より先けのよみ人

菫

独ふ運と板をぬつた刀

蘿

玉緒の茶入懐袋と包と握

臺

雨暗りしてぬる短夜

談

さし残る火串の煙り腥く

蘿

かたふよとあつ會津振を越

菫

懐の鏡くくはるくくつを

溪

所廟中のあけ蒲公英の高

臺

初ふ子^ハ此の顔ある夜の月

董

心をたれえ水もあつて

蘿

春高の鶴木のあや世をいけ

臺

あつてとちなる離祭はる

溪

國替子百里ゆらる駕の旅

蘿

糸の白さの我く驚く

董

暮をうつて童子の返るを深と

溪

水の節より匂ふ凡蘭

臺

酒涼し石のやんと酒来と

董

空お添へ配る木枝

蘿

氣うつて樹^{ツツミ}の妹の霄工み

臺

力の秋清ふ月の顔を

溪

騎ちり芦色の駒の萩を踏

蘿

高の難くあつて玉何

董

五百年鉦鼓くつぬる常念佛 溪
あまの城采女の髪ゆき 臺
施郎を扇のそと 蓮
鳥啼 雲のあつふの光 蘿
竹川の流る溪の 屯一座 臺
外次中ぬる 俳詠の春 溪

京寺甲五條上
田中庄兵衛板

大阪心齋橋筋安堂寺町
大野木市兵衛

江戸通本町
西村源六

